

漢文『呉越同舟』定期テスト対策問題 | 書き下し・現代語訳・句法の頻出設問と解答 解答・解説

問1

- (1) それ
- (2) 文頭に置いて「そもそも・いったい」と話を切り出し、これから一般的な道理を述べることを示す働き（発語の辞）。それ自体に具体的な意味はない。

問2

- (1) と
- (2) 呉人と越人と

※「A与B」は「AとBと」と、両方に「と」を付けて読むのが原則です。

問3 イ

〈解説〉この「与」は名詞「呉人」と「越人」の間に置かれ、「～と…と」と対等に並べる働き。「あたフ（与える）」「くみス（味方する）」と読むのは動詞の用法で、ここには当てはまらない。

問4

- (1) あい（歴史的仮名遣いでは「あひ」）
- (2) 互いに
- (3) 読み…にくむ／意味…憎む・憎み合う

※「相悪む」で「互いに憎み合う」の意味になります。

問5 ア

〈解説〉本文の「悪」は「にくム」（憎む）。「嫌悪」の「悪」も「にくむ」意味。「悪天候」「改悪」の「悪」は「アク（わるい）」の意味なので異なる。なお「悪」には「いづクンゾ」と読んで疑問・反語を表す用法もあるので注意。

問6 読み…「や」。働き…「呉人と越人とが憎み合っていること」をひとまず話題として示し、語調を整えて下の文へつなぐ（提示・詠嘆の語気を添える助字）。

※この「也」を読まずに「相悪む。」と文を切る本もあります（文末の断定の用法）。テストでは教科書の読み方に従いましょう。

問7

- (1) あたりテハ（「～に当たりては」）
- (2) 「まさニ～（ス）ベシ」と読み、「当然～すべきだ・～するのが当然だ」という意味を表す。
- (3) 再読文字とはいえない。再読文字なら「まさに」と読んだあと返ってもう一度「ベシ」と読むが、本文では「（風に遇ふに）あたりては」と動詞として一度だけ読んでいるから。「～の時に当たって・～に直面して」という意味の用法である。

問8 舟を同じくして

※「同レ舟」は「舟を同じにする＝同じ舟に乗り合わせる」ということ。

問9 読み…わたる／意味…（川や海を）渡る。

※「経済」「救済」の「済」とは違う、「渡る」の意味です。

問10 読まない置き字として扱う。働きは順接で、前の動作と後の動作をつなぐ。書き下し文では「済りて」の送り仮名「て」がこの「而」に当たる。

問11 書き下し…風に遇ふ（現代仮名遣いなら「遇う」）。意味…思いがけず出くわす・遭遇する。ここでは突然の強風（嵐）に遭うこと。

問12 読み…「や」。働き…「其の相救ふこと」を話題として強く示し、「左右の手のごとし」という下の述べ方につなぐ（提示の助字）。

問13

- (1) ごとし
- (2) 比況（たとえ）を表す。「～のようだ」の意味。
- (3) （その様子は）まるで左右の手のようなものである。

問14 ア

〈解説〉本文の「如」は「ごとし」（比況）。アも「水のごとし」と読む比況。イは「如かず」（シク＝及ぶ）と読む比較の用法、ウは「如何（いかん）」という疑問の用法なので異なる。

問15 夫れ呉人と越人と相悪むや、其の舟を同じくして済りて風に遇ふに当たりては、其の相救ふや、左右の手のごとし。

問16 そもそも、呉の国の人と越の国の人とは互いに憎み合っている。（しかしそんな両者でも）同じ舟に乗り合わせて（川を）渡り、突風に遭ったときには、互いに助け合う様子は、まるで左右の手のようなものである。

問17 本文に「相悪む」とあるとおり、互いに憎み合う敵同士の間柄。呉と越は長年戦争をくり返した、仲の悪い隣国どうしであった。

問18 ①同じ舟に乗り合わせて川（水上）を渡っているときに、②突然の強風（嵐）に遭って舟が危うくなった場面。つまり、逃げ場のない同じ場所で、共通の危機に直面した場面である。

問19 憎み合う呉人と越人が互いに助け合う様子を、左右の手が意識しなくても自然に補い合って動くことにとえ、その協力がきわめて緊密であることを表している。

問20

- (1) 仲の悪い者同士が、同じ場所や境遇に居合わせること。
- (2) たとえ憎み合う敵同士でも、共通の危機に直面すれば（左右の手のように）協力し合うものだ、ということ。孫子はこれを、軍隊を一つにまとめる用兵の理想の説明に用いた。

問21 ウ

〈解説〉「呉越同舟」は仲の悪い者同士が同じ場所に居合わせる事。アは仲よし同士なので誤り。イは「画竜点睛を欠く」と混同した誤り。

問22

(1) 『孫子』

(2) 孫武 (そんぶ)

(3) 春秋時代

(4) 兵家 (へいか)

※この一節は『孫子』の九地篇にあります。

問23 (例) 臥薪嘗胆 (がしんしょうたん) / 会稽の恥 (かいけいのはじ) など。

〈解説〉呉王夫差と越王勾践の争いからは、復讐のために苦勞を重ねる「臥薪嘗胆」、敗戦の屈辱を表す「会稽の恥」などの故事成語が生まれた。

【補足・本文の異同について】『孫子』は伝わるテキストによって字句や読み方に小さな違いがあります。冒頭の「也」を読まずに「相悪む。」と切る本や、「其の舟を同じくして済るに当たりて、風に遇はば」と区切って読む本もあります。テストでは教科書の本文・読み方に従って答えましょう。